

平成 27 年度第 2 回（第 8 回）米沢市総合計画審議会 会議録

1 日 時 平成 27 年 5 月 19 日（火） 15：00～17：00

2 場 所 市役所 B 棟第 5 会議室

3 出席委員

尾形健明会長、遠藤秀平委員、大和田浩子委員、奥村あい子委員、小野寺忠司委員、柴田正孝委員、島津眞一委員、白井裕久委員、鈴木清治委員、中嶋朱実委員、林宗太郎委員、我妻仁委員

以上 12 名

（安部美和子委員、泉多恵子委員、小野浩幸委員、佐藤大喜委員、佐藤晃代委員、白石祥和委員、清野雅好委員は欠席）

事務局

副市長、総務部長、企画調整部長、健康福祉部長、建設部長、会計管理者、水道部長、市病事務局長

（市民環境部長、産業部長、議会事務局長、教育管理部長、教育指導部長は欠席）

総合政策課 課長、課長補佐、総合計画策定室長、担当

4 会議録

（1）開会

（2）会長あいさつ

会 長 総合計画審議会も今年度 2 回目を迎え、約 2 か月後には答申となり、時期が近づいて参りました。皆さま方には忌憚ない意見をお出しいただき、より良い答申に出来ればと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（3）議事

事務局 審議会条例第 5 条第 2 項の規定により、会長が議長となることとされております。尾形会長に議長をお願いしたいと存じますのでよろしくお願いいたします。

会 長 それでは、議事に入りたいと思いますが、本日の会議につきましては、午後 5 時までには終了したいと考えておりますので、議事の運営につきまして委員の皆様のお協力をお願いいたします。それでは、本日の進め方について、事務局から説明願います。

事務局 はじめに、今回事務局で資料の調整に手間取り、審議資料の送付が遅れましたこと、また、基本構想に係る資料については本日配付となり、結果としまして、委員の皆様におかれましては事前に十分な時間的余裕を持って資料を見ていただく時間を取っていただくことができなかつたことについてお詫びいたします。今後は速やかに資料の提示をすべく努めさせていただきたいと思っております。申し訳ありませんでした。それでは、本日の進め方について説明をさせていただきます。最初に基本構想案の修正内容について説明をさせていただきますので、その内容について、御審議をいただき、基本構想案に対する審議会としての御意見をまとめていただければと思っております。基本構想案の御審議が終了した後、基本計画案の概要について説明をさせていただきます、その後、基本計画案について御審議をいただくこととしていますが、時間の関係上、全ての意見をお聞きする時間が取れな

いことが予想されることから、本日は基本計画全体を見据えた視点から主に全体の構成内容、まとめ方等について妥当かどうか、過不足がないかどうかを中心に御審議を進めていただくようお願いいたします。なお、個別施策等に対する御意見等についてはお手数をおかけいたしますが、配付しております米沢市新総合計画への意見書の用紙を御参考にしていただき5月25日（月）の正午までメール等にて事務局に提出していただくようお願いいたします。本日の御意見とメール等による御意見を踏まえ、内部で再度調整を行わせていただき、次回までに調整案を皆様にお出しすることとします。

会 長 特に問題がなければ事務局案で進めさせていただきたいと考えますがよろしいでしょうか。

委 員 （異議なし）

会 長 5月25日（月）正午まで御意見をメール等でお寄せいただきたいということですので、よろしく願います。それでは、基本構想案について事務局から説明願います。

事務局 資料1「米沢市新総合計画（基本構想案5/19修正）」及び資料2「基本構想（案）への御意見と御意見に対する調整内容」に基づき説明

- 前回の審議会での御意見等も踏まえ、修正したものを資料1としてお出ししており、変更部分については下線にてお示しをしております。
- 前回の主な御意見とそれを踏まえた調整内容をまとめたものを資料2としてお出ししています。
- 調整にあたっては、委員の皆様から頂戴した御意見を可能な限り反映させるよう心がけたところですが、様々な視点での御意見を頂戴したこと、また、全体的なバランス等も考慮する必要があることなどから、全ての御意見を反映することができなかったことをあらかじめ御了承願います。
- 主な調整内容としまして、将来像については、委員の皆様から多くの御意見を頂戴し、それを踏まえて事務局で検討をさせていただいた結果、審議会全体の意見としては、米沢の特色である学園都市を打ち出すことについては概ね賛同を得られているものと判断をさせていただき、「ひとが輝き 創造し続ける学園都市・米沢」とすることが妥当とさせていただきました。
- 本文については、前回いただいた御意見を参考に、個別の大学名の表現を避ける形で修正をさせていただき、将来像の内容をより理解しやすくするため、本文全体の段落構成を変更し、将来像が何を目指しているのかを説明する文章を抜き出し、将来像の下に記載する形としました。
- また、高等学校教育も含めた表現にしたほうが良いとの御意見も頂戴したところですが、当該箇所の記事の趣旨は、大学による学園都市が形成されていることにより、本市の魅力をさらに高めるための環境が整っているという現在の状況を説明するものであることから、高等学校教育については含めないことが妥当と判断しました。
- なお、今後の高等学校と学園都市の関係については、委員の皆様からの御意見をいただきながら、基本計画の中で引き続き検討したいと考えております。

- 基本理念についても御意見を踏まえて事務局で検討をさせていただき、わかりやすい表現としまして「市民が積極的に参加するまちづくり」が妥当との判断をさせていただきました。
- 本文については、「能力に応じて学ぶ」との表現については誤解を招きやすい表現であるとの御意見を踏まえ修正させていただきました。また、基本理念の図についても御意見を踏まえ修正させていただきました。
- 基本目標についてですが、大きな修正点としまして、基本目標2に入れておりました「協働」に関する事項を基本目標6の持続可能なまちづくりに移動させていただきました。
- これは、持続可能なまちづくりについては行政のみでなく市民が積極的にまちづくりに参画する視点が必要との御意見を踏まえ修正させていただきました。
- この修正に伴い、基本目標2のタイトルから「協働」の部分を削除すると共に、文章の調整を行わせていただきました。
- また、基本目標4のタイトルについては、施策の体系とタイトルが合致しない等の御意見を踏まえ、内容を直接的に伝える「子育てと健康長寿を支えるまちづくり」に変更しました。
- なお、子育てを基本目標の一つとして独立した方が良いとの御意見も頂戴したところですが、保健・医療・福祉と子育ては密接な関係があること、また、他の基本目標とのバランスも考慮して分割しないことが妥当との判断をさせていただきました。
- 基本目標6につきましては、基本目標2から協働の部分を移動し、本文についても協働の部分を追加、調整を行いました。
- なお、基本目標の6つの中でこれから10年間に最重点課題としてやっていくべきものを選択と集中で優先性をつけられないものかとの御意見に対しましては、今回お示しをした基本計画の中の施策等から前期5年間で重点的に取り組むべき施策等を重点事業等として今後内部で精査の上、次回審議会でお示しする予定としておりますので御了承願います。
- 人口についても様々な御意見を頂戴したところですが、お示しをさせていただいた数値については、科学的な推計に基づいたものであることから、変更はしないということで進めていきたいと考えております。
- 土地利用につきましては、いただいた御意見を踏まえまして「市街地形成の基本的方向」とタイトルを変更し、文章構成もコンパクトなまちづくりをテーマとした内容に修正をさせていただきました。
- 大綱の修正箇所ではありますが、1の挑戦し続ける活力ある産業のまちづくりについては、頂戴した御意見を踏まえ、付加価値と所得向上、農業と商業・観光との連携、大学の位置付け及び若者と女性の雇用に係る文言等を入れ込む形で文章を修正しました。
- 2の郷土をつくる人材が育つ、教育と文化のまちづくりについては、基本目標の所で御説明したとおり協働の部分を削除するとともに頂戴した御意見も踏まえ、全体的に内容の補足をさせていただきました。

- 6の持続可能なまちづくりについては、協働の部分を追加しました。

会 長 それでは、委員の皆様からはじめに基本構想の修正案について御意見を頂戴したいと思います。まずは、基本構想案を全体的に御覧いただき、方向性などに誤っているところはないかどうか御意見をお願いします。現段階では細かいところの修正はあるとは思いますが、8割完成していれば「良し」としていいと思います。委員の皆さまの御意見が反映されていればいいと考えておりますので、そのような観点から御確認をお願いします。特に、基本構想につきましては、今後パブリックコメント等を募集するなど作業が入りますので、本日で議論を終了とさせていただきます、御了解をいただきたいと考えています。なお、基本計画案は資料の内容が多いこともありますので、意見書という形で対応していくこととしております。キャッチコピーにつきましても、様々な御意見がありました、「学園都市」は今後10年間米沢市が頑張っていくといういい言葉なのかなと思っています。何度も言いますが、他の都市と違うという、米沢の特色を出すには、人口に対する学生の数が多いので、学園都市が最適なのかなと考えています。

委 員 基本目標6「持続可能なまちづくり」に協働が来たことですっきりしたと思います。本文に「男女共同参画を推進することにより、市民一人ひとりの活力を地域づくりに発揮できる協働によるまちづくりを推進していきます」とあり、分かる文章なのですが、協働によるまちづくりというのは男女共に同じ人間として関与していくという意味では当然のことであり、男女共同参画と言うのはどちらかと言えば社会全体のこと、企業や組織、分野で男女関わらず昇進昇格や、委員の女性登用をして男女共同参画を推進していこうということなので、協働のまちづくりの中に男女共同参画が入るのが唐突であると感じました。男女共同参画がどういう意味で協働に入れているのか、表現としてももう少し変えたらいいのではないかと思います。また、協働のまちづくりには様々な考え方があって、市民と行政が共に何らかの課題解決に向かっているという考えもあれば、行政が行うものと民間がするものがあるという考えも、厳しい行財政状況の中では必要なのではないかと思っていて、2つの協働の意味があると思うので、入れづらいかもしれませんが、行政がやるべきことと市民一人ひとりがやるべきことを明確にして、厳しい財政状況を考える上ではしっかり見直すべきところは見直しながら、かつ共にそれぞれの役割を果たしていこうという趣旨で書いていただければと思います。また、8ページの文章で、「農林業、商工業及び観光業とが連携した6次産業化を推進し、高付加価値なものづくりを進め、市民所得の向上を図っていきます」とあり、以前は雇用の維持・確保だった文章が市民所得の向上になったのはすっきりした表現になったと思いますが、付加価値を高めなければならないのは、ものづくりだけではなく、サービスやコンテンツ等もあるので、そのような観点も取り入れていただければ、全ての付加価値を高めるという表現になるのではないかと思います。

会 長 他に御意見ございますか。

委 員 前回の審議会で、子育てと福祉の柱を分けるかどうかの話が出たので、どのような形にまとめられたか気になっていました。他の目標とのバランス等を考慮し

て分割しないということが妥当との判断でした。先にいただいた基本計画案を読んできましたが、子どもに関する部分が弱いと思いました。第2章は生涯教育の面が強く出ており、学園都市としても、高等教育機関と幼少期からの関わりを深めて、モバイルキッズのような取り組みを広げていければと考えておりましたが、そういった小さい時期からの関わりの部分も弱いですし、全体的にも弱いと感じました。また、幼児期と学童期が分けられていて、子育ては就学前の6歳までで、小学校以降は教育に分断されていると子どもの育ちに対して積極的なアプローチができないのではないかと思います。ですので、やはり子育ての柱を一本立てていただいて、子育てを応援し子どもたちを大事に育てるまちづくりとして施策をまとめると、0歳から18歳までトータル的に考えていくことができ、郷土をつくる人材を育て、郷土愛を育み、次代の担い手を育てることになると思いますし、ここに力を注がないと、人口減少に歯止めをかけられないと、以前の審議会でも発言があったように思いますので、そこを明確に打ち出していただければと思いますので、このまま最終案を迎えることに心配をしています。

会 長 前回子育てと健康長寿を別に柱立ててはという話がありました。全体の体裁を考慮すると、これ以上柱を増やすことが適切かというところがあって、そこでの葛藤があったのですよね。

委 員 子育てを0歳から6歳までの就学前までと考える視点が違うと思います。子育てはその子が大人になるまでなので、生まれてから18歳までを子育てとして考えることが必要だと思います。以前に22歳の決断という話がありましたが、こと米沢でいうと高校を卒業する18歳の決断が重要ななと思っています。ですので、18歳までの子育てをきちんと見届けてサポートしていくところが大事なので、施策を散りばめるのではなく一本化できないかと思っています。

会 長 事務局でこの御意見は受け止めていただいてよろしいでしょうか。
事務局 はい。

会 長 他の皆さんからいいアイデアがあればお聞きしたいと思いますが、生まれてから18歳の独り立ちするまでが子育てであるという御意見ですね。モバイルキッズなど途中の教育も含めて子育てという広い範囲ということです。この文章から読み取れないこともないと思っておりましたが、なお、基本計画案については後程御意見をいただいておりますので、その際にもう一度御意見をいただきたいと思っています。また、基本目標4番にもう少し、今の意見が強めに出ればいいのかもかもしれませんね。

委 員 全体の構成という大きな観点から言えば、過不足はないと思います。先ほど御意見があったように、前文に「ひとが輝き」とあるので子育てが来てもいいのかなとも思いましたが、全体を通しては網羅されていると思います。また、基本構想の出だしはとても格調高い文章だと感じました。最初のセンテンスを読んだだけで、すごそうだなと期待できるような書き出しなので、今までなかったものだなと思います。事務局の説明の中で、基本目標の優先順位が必要との議論があったと言われましたが、私もそう思います。基本目標その1が「産業」でいいのかは議論の余地があると思います。ここは、優先順位ではないにしても、1番は「命」

や「ひと」がくるのではないのかなと思います。全体的なカバーとしてはいいですが、あとは順位などの議論が必要だと考えました。

会 長 やはり1番となると、最も大切なところとなってしまいますね。先ほどの子育てに関する御意見は基本目標2の「郷土をつくる人材が育つ」に全部入ってくるということですかね。他に御意見ありますか。

委 員 質問なのですが、将来像にある「ひとが輝き」の「ひと」が平仮名の理由はありますか。下には「ひと（市民）」と書いてありますが、漢字ではなく平仮名にした意味はあるのでしょうか。

事務局 平仮名にした理由としましては、下にもあるように市民ということで、市民にも個人や事業者等広く表せるという意味を持たせて平仮名の「ひと」にしました。

会 長 生物学的な人だけではないということですね。他に御意見ございますか。

委 員 分からないので教えていただきたいのですが、「付加価値率」とはどういう解釈で入れたのですか。また、基本目標の順番の話がありましたが、人口減少対策として雇用を創出する目標があるという意味では産業を持ってきて雇用を生み出すことは、目標に対しての優先順位としては適切だと思いました。

事務局 工業統計調査で出されている付加価値率というもので、製造品出荷額に対する付加価値の割合を表したものです。

会 長 他にいかがですか。

委 員 内容については、素晴らしい形で固まっていると思っております。基本目標の順番については確たる思いはありませんが、再考して皆さんで御意見を出していただいた方がいいのかなと思いました。将来像が「ひとが輝き 創造し続ける」とあるので「ひと」の部分で最初に持ってくる方がいいのかなと悩んでいるところです。

委 員 前回の審議会で将来像について様々な意見が出された分、この辺止まりなのかなというのが正直なところです。また、データに基づいた想定人口など、高い目標値を掲げられないところは少し残念ですが、大変コンパクトにまとめていただいて、第1章の文も素晴らしいと思います。「学園都市」についても進めたいという意見と、どうなのかという意見とあったわけですが、そのプレッシャーを跳ね除けて出てきていますし、「ひとが輝き 創造し続ける 学園都市・米沢」を旗頭に立て、その中心に「ひと」や「学園」が来ているので、産業なども大事なのですが、やはり「ひと」だと思います。人材不足という話も前回ありましたが、「教育」や「郷土愛」というのはすごく大事だと感じました。その郷土を想う気持ちがあるから、米沢を発信したり、呼び込んだりということが自然にできるようになると思いますし、実際色々な活動が広がっていると感じていますので、「教育」を一番目に持ってきてもいいのではないかと思います。また、来年度には新しい文化施設がまちの中心に完成しますので、そこも入れられないかなと思いました。基本理念で少し気になったのですが、「市民が積極的に参加するまちづくり」の「参加する」という表現に引っ掛かりを感じました。「参加する」という表現で間違いはないのですが、積極的に参加できるというところをこれからつくるもの

の中で見せていってほしいと思います。行政はこういった施策を行うので、市民の皆さんはこのように使ってください、こういうことに参加できますよという部分を的確に盛り込んでいければいいと思います。基本計画には市民に期待する役割が載せてあるのはとてもいいと思いますので、お互いに Win-Win の関係を打ち出していったらいいのではないのでしょうか。

委員 私も全体的には良くまとめられていると思っております。前回会議の中では、基本構想は、他の市とすり替えて成り立つようではいかなものかもという御意見もあって、その点は修正され、随所に米沢らしさというものが入っていて、非常に良くまとめられていると思います。もう一つ注意しなくてはいけないのが、時代背景だと思うのですが、マンネリ化する色々な地域課題はあるにせよ、果たして20年前、30年前と同じような基本計画になっていないか、その打開策としては、今の時代にあった解決策、方向性が入っているかというところが大事だと思います。そういった点では、平成27年という今の時代に見合う形で大分精査されてきたのではないかと考えております。

委員 私はこれを見せていただいて、数多くの方々の意見を良くまとめていただいているなと感じました。本当に大変だったのだらうと思います。私の意見を反映して、「能力に応じて学ぶ」というところを「学びたいときにいつでも学ぶ」というように良いように変えていただけてありがたいと思います。それから、委員が言われた子育てについて考えていたのですが、幼少連携、幼稚園、保育園と小学校との連携ですが、いわゆる、小中連携、中高連携と同じく幼少連携ということで、幼稚園や保育園の教育と小学校は繋がっているという考え方が大事なのかなと思います。子育てという言葉は、おそらく小学校からではなく、その前からという気がします。ただ、これを改めて一項目とすると大変かなという気がしています。それで、その基本計画の中にある、施策での取り組みの2-2-1「学校教育の充実」の中で保育園や幼稚園でのことについて触れて、そして改めて、後にある子育てと健康長寿を支えるまちづくりでも触れていくという形になるのかなと思います。つまり第2章の「郷土をつくる人材を育てる」の中の施策2-2「子どもたちが健やかに成長する」の中に、幼稚園や保育園の事についての内容が無いので、そこにちょっと触れていただければ、いわゆる教育は、小学校からではなく、保育園や幼稚園から始まるのだなという意味合いにも取れるのかなと考えたところです。就学前のことからとなると、産まれてからのこと等が色々重なってくるのでボリュームが大きくなり、扱いが大変となることから、健康と一緒にになってしまうのかなと思いますので、全体を鑑みて、幼稚園や保育園の事について触れていただければと思います。

会長 ありがとうございます。高大連携とよく言いますが、高校生と大学はよく一緒にやっています。今度は中学校と大学、中学校と小学校になるとモバイルキッズということになるとは思います。もっと下からという御意見ということで、事務局で検討をお願いします。

委員 昨年度の第3回の審議会でも、確か50年後、20年後の米沢市の構想を練っていくという時に、その郷土の将来像をそのように描くかで、私が発言しましたが、

やはりこの将来像の中に、第1章の将来像の中に入っているのですが、上杉鷹山の精神を入れていただきたいと思います。私達は小学校、中学校あたりから、上杉鷹山について色々学び、あるいは、親から教えられてきました。それこそ節約や「成せばなる」のチャレンジ精神と言ったものを教わりながら育ってきて、それが段々と学校教育の中で子ども達にも継承されている訳です。やはり米沢ブランドと言うと、県外では皆さん米沢牛を知っているのですが、経済界の方や行政リーダー、あるいは、民間企業のリーダーの方にとっては、上杉鷹山がブランドであるわけです。私達も米沢ブランドとして上杉鷹山の話をして、産業振興などの藩政改革や、「成せばなる」がケネディ元大統領の言葉にもあるといったものが、我々の誇りであり、まさしく米沢の精神面でのブランド、文化面でのブランドというのは、上杉鷹山であると思うので、個人的には、将来像の中に、我々が誇れる米沢、全世界に向けてのブランドとして、これまで受け継いで、継承していくであろう鷹山の精神を入れていただきたいと思います。また、もう一つ議論があったのが、子育ての部分について私も意見を出したところですが、今回色々な事情で入らなかったのは、よく分かるのですが、これから10年間の基本構想なので、できれば、この基本目標2と4と5をうまく分けていただいて、基本計画を見てもわかるように、健康長寿を支える中には、高齢者医療、高齢者福祉だけでなく障がい者や様々な福祉の問題もあり医療の問題もあるということで社会のセーフティネットであると考えます。そういう意味で5番の安心安全に私たちが暮らす上で、災害に対する防災・雪害等のハード的な部分と合わせてもいいのかなと思います。そうすると基本目標4の中から子育ての部分が抜けて、これが2の中に入ってきて、子育てを基本目標の柱として幼少期から高校卒業まで一貫して幼児教育から学校教育までを含めて人材をつくっていくのだということでもまとめられるのではないのかなと思います。

会 長 ありがとうございます。子育ての部分については事務局の方で検討してください。ほかに御意見等がなければ、本日の御意見を踏まえ、事務局の方で再度調整をして、次回皆様にお示するという事によってよろしいでしょうか。

委 員 (異議なし)

会 長 それでは次に進みます。基本計画案について事務局から説明願います。

事務局 資料3「米沢市新総合計画 基本計画(案)」に基づき説明

- 表紙を御覧願います。基本計画は基本構想の基本目標を1つの章として構成し、第1章は産業、雇用分野に関連する施策として、施策1-1では商工業の振興、施策1-2では観光の振興、施策1-3では農林業、施策1-4では雇用の促進等に係る施策を掲げています。
- 第2章では教育文化分野の施策として、施策2-1では生涯学習全般について、施策2-2では学校教育、青少年育成等について、施策2-3ではスポーツ活動について、施策2-4では芸術、文化について、施策2-5では国内外との交流について、施策2-6では大学と連携した取り組みに係る施策を掲げています。
- 第3章は都市基盤と環境分野の施策として施策3-1では住環境について、施

策3-2では土地利用と景観形成について、施策3-3では道路等の交通環境について、施策3-4では上下水道等について、施策3-5では情報通信基盤等について、施策3-6では省資源、公害防止等の環境に係る施策を掲げています。

- 第4章は子育て等の健康福祉分野として施策4-1では健康意識の高揚、健康づくり推進等について、施策4-2では幼児教育、子育て環境、婚活支援等について、施策4-3では高齢者福祉について、施策4-4障害者福祉について、施策4-5では地域福祉活動について、施策4-6では医療体制について、施策4-7については社会保障制度に係る施策を掲げています。
- 第5章は防災、防犯分野と雪対策として、施策5-1では防災、消防について、施策5-2では交通安全、防犯、消費者対策について、施策5-3では雪対策等に係る施策を掲げています。
- 第6章は協働と行政経営の分野として施策6-1では市民との協働等について、施策6-2では男女共同について、施策6-3では行政経営について、施策6-4では近隣自治体等の連携に係る施策を掲げています。
- 基本計画の各施策のページの構成を1ページに掲載している活力ある商工業の振興を例に説明をいたします。
- 施策の背景となる現状と課題について、社会的潮流やこれまでの市の取り組みなどを踏まえて記載し、併せて、現状や課題を示す統計データ等を図表、グラフ等で掲載する予定としています。
- 2ページの施策の目指す姿には、施策で目指す姿を簡潔に記載すると共に、施策での取り組み内容の概要を掲載しています。
- 施策での取り組みについては、施策における様々な取り組みを項目ごとにまとめて掲載し、それぞれの取り組みを所管する部署についても明示する予定としており、施策での取り組みの最後には、施策全体を通じた主な事業を掲載することとしています。
- 市民・地域・事業者に期待する役割としまして、施策の目標達成に向けて、市民・事業者等に期待される役割を示すこととしております。
- 4ページには、目指す目標値としまして、施策における取り組みの成果を把握するための指標とその現状値・目標値を示す予定としており、原則、現状値は平成26年度、目標値は前期計画の最終年度である平成32年度の数値を記載する予定としており、こちらについても所管する部署について明示する予定としております。
- 各個別の取り組み内容等については分量の関係から説明を割愛させていただきます。また、目標値と図表として掲載予定の統計データ等については、今後最新のデータに修正するほか、全体的なバランス等も考慮したものにするなど引き続き精査していく予定としておりますので御了承願います。

会長 それでは、委員の皆様から基本計画案について御意見を頂戴したいと思います。限られた時間の中ですべての御意見を出すのも大変だと思いますので、5月25日締め切りの意見書をメール等で御提出いただいても構いません。

委員 前回の審議会で、産業の面では所得の向上がキーワードではないかという話が出て、他の委員からも賛同があったわけですが、それを受けて、工業の製造品出荷額といった売り上げではなく、経常利益につながる付加価値額を重視する方向性になったのだと思います。付表としてある平成24年の製造品出荷額は平成23年よりも大幅に落ち込み、平成21年のリーマンショック時の6千億よりも低くなっています。これは、業種別に見ると、情報産業が3千億ほど落ちているのです。その3千億という金額は由々しき問題であり、大きな変換が起きたのだと思います。ですので、抽象的な施策の羅列ではなく、具体的な施策を工業振興に盛り込んでいかないと命が入らないような気がします。小売りも同じです。この統計データの始めは商業統計の数値で、途中から経済センサス調査に切り替わった数値だと思うので、多少統計の取り方が変わっているにしても、年間商品販売額は1,000億円の大台から落ちてしまっています。さらに卸売企業も減退しており、年間商品販売額は平成24年には637億円まで落ちています。平成11年から比べると半分近くまで落ちています。こういった構造的な変化で米沢の弱さが露呈している部分をしっかりとピックアップして施策の目指すべき姿をもう少しフォーカスしていければと思います。

会長 由々しき問題ですね。これを解決するには大変な施策が必要になると思います。
委員 今外国からのお客様は増えていると思うのですが、観光施策の目標値にも外国人観光客受入数が現状3,500人と記載されています。参考までにお聞きしたいのですが、他の自治体では外国人観光客はどのくらいいるのでしょうか。米沢でも外国の方を見かけることが多くなったと思いますが、まだ観光として誘致するゆとりがあると思うので、他市と比較してみて現状値3,500人や目標値5,000人がどうなのかとったりしました。また、銀座など首都圏で展開しているアンテナショップの売上などは把握しているのでしょうか。商業や観光は外に発信していかないと難しいと思うので、指標をつくるためにも数値が知りたいなと思いました。

会長 そういった数値は出していただけですか。

事務局 はい。

委員 1点目ですが、15ページの施策2-2-1「学校教育の充実」に、「学校不適應の子どもたちへの一貫した支援を推進するため、関係機関との連携などについて検討します。」とあります。この支援は現在も行われているわけで、以前支援センターという話もさせていただいたが、2月の中間報告書では、「学校や社会に適應できない児童・生徒、若者を復帰させるための幼少期から青年期まで一貫した支援体制の整備も必要です。」と書いてあるのです。何となく中間報告より後退しているような表現になった気がします。検討していただければと思います。2点目は、同じ施策にある「郷土に愛着を感じ、本市の将来を担う意欲ある人材を確保するため、道徳教育の充実を図り、自立心やチャレンジ精神の育成を推進します。」という文章です。ここには道徳教育だけが出てくるのですが、郷土に愛着を感じ米沢を好きになるということは、米沢について見たり調べたりして学習する、郷土学習や地域学習、体験学習を通じて推進されるものだと思います。道徳教育

でも推進はされますが、それだけではないと思いますので表現を検討していただければと思います。また、そのページの下にある児童生徒に期待する役割として、「いのちの大切さを理解し、優しさや思いやりを持って人と接しましょう。」と書いてあり、まさにその通りだと思います。しかし、中間報告書には「自立心」や「たくましさ」が書いてあり、以前「がってしないこども」という発言もさせていただきましたが、そういった表現もあっていいのではないかと思います。次の16ページにある目指す目標値はこれから調整されると思うのですが、学校給食以外でも出てくるだろうと思いながら見させていただきました。

会長 他に細かいことでも結構ですのでお気づきであれば発言をお願いします。

委員 私も道德教育は大事だと思っています。むしろ、ここに「鷹山公の精神」や「成せばなる」といった具体的な表現を入れていった方がいいのではないかと思います。また、19ページからの芸術文化について、現在一刀彫や米沢織といった伝統工芸の後継者が不足しており、もしかすると何年か後になくなってしまいう技術があるかもしれないというくらい危機的な状況だと思っています。ですので、伝統工芸の保存や伝承も施策に入れてほしいと思います。手を使った伝統産業は山形の大事な文化産業でありますから、ここに対してももっと目を向けていただきたいと思います。

委員 1ページに「グローバル化」と書いてありますが、これから学園都市を活用するまちづくりを進める中で、グローバル化をどういう形で取り入れていくか、どういう位置づけで持っていくかが非常に重要だと思います。人口減少社会の中でも、外部からの人を取り入れて付加価値を見い出しながら産業を構築して、例えば山大がやっている留学生を取り入れるような取り組みを行い、一つの産業を創り上げて、逆に海外から有識者の方々を市内に入れることで産業を推進させながら人口を増やすアプローチもあると思います。この学園都市の中にそのエッセンスを入れていかないと、グローバルから遅れることで力が減衰することにつながります。最終的にはグローバルでかつ地域が生き残ると言われていますが、地域社会を一つの要素として考えながら取り入れていかないと難しいかなと感じます。NECのパソコンについてもグローバルに取り組んでいます。積極的にアプローチすることによって20年程かかりましたが、組織体を維持存続できることにつながっていますので、そういった観点で考えていただければ良いのかなと思います。また、3ページの1-1-6に「市場開拓を行い、地場産業の販路拡大を促進します」とありますが、表現をもう少し具体的に考えていただければ良いのかなと思います。全体的にはグローバル化を入れていかないと5年後の計画としては厳しいのかなと感じました。

会長 他にございますか。

委員 39ページに保育の統計データに認可保育所定員数について書いてありますが、実は保育所は定員数という固定の数値の他に入所児童数という数値がありまして、待機児童の解消の関係もあって園児は定員数の120%まで入所できるように年間通して考慮しているものですから、定員数はあまり参考にならない数値です。定員数よりも入所児童数の推移を見ていった方が、0歳児から6歳児の動向が見

えますし、出生数が減っていますが、ここに0歳児から6歳児までの総数を見ていった上で、子どもたちの幼稚園、保育所、無認可保育所、家庭の4つのパターンでどのように数値が推移しているか見たほうが良いと思います。ここ近年の保育所における定員割れは全くありませんし、逆に人数は増えています。具体的に言うと、平成25年の定員数が1,315人になっていますが、実際の9月の入所数は1,538人と聞いております。実態をここで見ることによって、米沢市の子育て環境が見えてくると思います。保育所の入園数が増えるということが、家庭や幼稚園から保育所へ移行していることが読み取れますし、子どもの育ちという大きい部分で見ていったとき、0歳児から就学前の人数の把握に加えて、認可保育園や無認可保育園、幼稚園の数がどのくらいあるのかを把握し、今後認定こども園が増えていくという推移を考えて、小学校の推移などがトータル的に見えてくると、米沢市の構成が見えて、力らを入れるべきところが見えてくると思います。このような数値が入ってくると見やすくなりますし、現状が集約しているので中学や高校の授業でも参考書で活用してもらい、米沢を知ってもらえる資料になれば良いと思いますし、人をつくるということにも結び付いていいのではないのでしょうか。大人の資料としてだけではなく、青年層まで幅広く読んでもらえれば、最近18歳での選挙権なども話題になっていますので、数値を具体的に入れることによって読んで面白いと感じられるのではないかと思います。また、21ページに姉妹都市や友好都市とのつながりとありますが、実際にどこの都市と米沢市が姉妹都市を結んでいるのかを具体的に明記されると、現状を把握する意味で大事だと思います。小中学校では東海市や沖縄市などと交流を行っておりますし、皆に知らせることも大事だと思います。

会 長 姉妹都市は書けると思うので、事務局で記載をお願いします。入所児童数というのはデータがあると思いますので準備をお願いします。他にございますか。

委 員 12ページの施策2-1の現状と課題に「コミュニティセンターの環境整備」とありますが、各地区のコミュニティセンターの中には建設以来50数年経つ施設が1か所、築50年に近い施設が2か所ありまして、かなり老朽化が進んでいます。積極的に改築あるいは改修がないと大変な状態であるので、表現を少し検討していただければと思います。また、13ページの施策2-1-2「学習環境の整備」にあるコミュニティセンターの機能充実についても計画的な再建、改修などの推進をお願いできればと思っています。そのことは、59ページの施策6-1-4「コミュニティ活動の拠点整備」の中にも書いておりますので、書かなくてもいいかとも思ったのですが、そこだけではなく12・13ページにも記載いただければと思ったところでした。

会 長 築50年も経っているのですか。

委 員 はい。新しいところは新しいのですが。

会 長 他に御意見はございますか。

委 員 全体的な考え方として施策での取り組みを見ていくと、具体的な施策と抽象的な施策があり、それぞれ市の取り組み状況などがあってこのような表現になっていると思います。また、総合計画の中の基本計画ですから、この計画を受けてそ

それぞれの個別計画が出来てくると思いますので、ここは総合計画としての大きな柱だと思えば、どこまで具体策を書くかというのは難しいとは思いますが、希望としては出来るだけ、例を挙げますと施策2-2-2「教育環境の充実」で言えば、タイトルで教育環境の充実という柱があって、その下の文章が「施設の老朽化…」と2行にもわたって長く書かれ、内容も議会の答弁のような文章と感じました。それよりは「施設の老朽化に伴う改修を今後も計画的に進めていく」と箇条書きで書いた方がいいと思います。また、「子どもたちがすごしやすい環境づくりに努める」というのは当たり前のことですから、「学校の改築に伴っては省エネルギーなどの環境に配慮した施設整備を推進する」など、箇条書きで「〇〇のため」や「〇〇によって」という表現は極力省いてもらって、この資料を見た時に、全文章を読まなければ理解できないということではなく、パッと見て教育環境の充実のためにはこういったことを進めていくのだと分かる形の表現にしていきたいと思います。14ページの現状と課題の2つ目に不登校の発生率のことが書いてありますが、これを見ると、米沢市の子どもを取り巻く環境の中で一番の課題が不登校と読み取れてしまうような気がします。同様に施策2-2-1にも「いのちを育む大切さ」の次に「不登校」がきています。大事なテーマではありますが、最初に出てくると、今後10年間で真っ先に取り組むべき課題が「不登校」と捉えられてしまうと思いますので、章の構成についても考えていただきたいと思います。また、先ほどお話のあった子育てと健康長寿の件につきまして、どう考えるか、どう切り分けるかと話がありましたが、この施策の推進の中で大事だと思ったのは、42ページが長寿のまちづくりになっていて高齢者福祉や介護保険制度が施策として打ち出され、地域包括ケアシステムの構築が出てきている一方で、施策4-6で適切な医療を受けられる環境整備と、市立病院の改築といったハードやネットワークを整備しようという項目があり、施策が離れていると感じています。福祉・医療・介護は一体化しなければいけないわけで、それがあって初めて地域包括ケアシステムができると考えています。先ほどの子育ての部分や安心安全を含めた高齢者福祉・介護・医療を分けるという、うまく統合や切り分けをして、もう少し施策の枠組みを考えればいいのではと思いました。

委員長 ありがとうございます。その他御発言ございますか。

49ページの施策4-6-2「市立病院の機能充実」について、1点目に「患者の診療ニーズに対応した診療科目の設置を推進する」とあり、確かに大事だと思います。その他にも、いかに患者さんに対してきめ細やかなサービスを提供できるかも大事なのかなと思いました。多くの患者さんに来院していただいて、多くの患者さんがストレスなく利用できるような環境の充実も図ってほしいと感じました。

委員長 他に御意見はありますか。

37ページです。施策の目指す姿の内容で、「市民一人ひとりがいきいきと暮らし、運動や食を通じた健康への意識が高い、健康増進のまちを目指します。」とありますが、健康づくりから見ると、運動と食の比重は食の方が重いと考えますので、この表現は「食と運動」が適切だと思います。38ページの期待する役割

では「バランスの良い食事や適度な運動を」と食事が先に来ているので、こちらが適切かと思えます。もう一点ですが、38ページの4-1-2「生活習慣病の予防の推進」の第1文で気になっているところがあります。「食生活改善や生活習慣の定着などによる一次予防に重点を置いた対策」とあり、どんな生活習慣を定着させるのか記載する必要があるのかなと思えます。例えば「健康な生活習慣の定着」とすれば合うと思えますし、先ほどの食と運動を取り上げるのであれば、「食生活改善や運動習慣の定着などによる」という表現にすれば適切かと思えました。さらに、施策4-1-4「健康推進体制の整備」にある「シンクタンク機能を活用した効果的な食育の推進、重症化予防等の保健活動」となっていますが、重症化予防には何の予防が必要と言う記載が必要だと思えます。例えば、「生活習慣の発症予防と重症化予防」などの表現がないと分からないのではないかと思います。

会長 事務局で検討をお願いします。それぞれ御専門の立場から御発言ございますか。
委員 今後の流れをお聞きしたいのですが、基本計画を策定した後は、年度ごとの実行計画書を作っていくのでしょうか。

事務局 この基本計画までは財源的な裏付けまでは検証していない段階ですが、今後この基本計画を受けて実施計画を策定します。これは3年間の計画ですが2年毎に見直しし、財源的な裏付けを検証しながら計画を作っております。

委員 財源的な裏付けは、様々な計画に対する予算付けなどを睨みながら優先順位をつけて、可能なものは来年度に実際施策計画を作ったりすることですね。分かりました。工業だけではなく、観光など具体的な数値を入れていかないと達成率は計れないかなと思えます。施策を分割していくと具体的な予算が分かってきて、それに対するターゲットを決めていくと思うのですが、3年間で実施計画を策定するのであれば、自分たちがどういう目標を定めていかなければならないかを明確にしていかないと、先ほどお話しされたように抽象的な表現に概ねなってしまうと、この資料を読んだ人が「このくらいの資料か」という感覚を受けないかと思ってお聞きしたかったのです。全体的な今後のスケジュールが具体的な施策とつながっていたか分からなかったのですが、結果的に予算付けも関わって実施計画に移っていくということで理解しました。

会長 私たちは予算を考えず、米沢のあるべき姿を議論していこうという意識でいいとのことです。このあと、この基本計画に縛られて実施計画を作るのは大変だと思いますが。

委員 実施計画が一番大事なところですね。実際に目標等を設定していかに達成していくかというわけですので。そう考えると、基本計画にも「支援します」のような、意思を入れていかなければ計画として弱いのかなと思えます。

会長 ありがとうございます。他によろしいですか。

委員 やはり、将来像に「学園都市」が入っていることが今一つ感じられないと思えます。逆に言うと、「学園都市」が抜けて「ひとが輝き 創造し続ける 米沢」でも同じ計画だと思います。なぜ学園都市を掲げたのかがもう少し見えたほうがいいと感じました。募集人数が減ったりしているのかとは思いますが、実際、統

計データを見ると学生の数は減っているのですね。今回、学園都市構想を打ち立てたわけですので、学生やそこに関わる家族などがどのくらいいて、数値を出すのはなかなか難しいとは思うのですが、イラストででもいいので目に見えるようなものがあるといいのかなと思いました。やはり数値があるのは一番分かりやすいですし、現状があって目標値を掲げることは効果的だと思うので、必要だと思われる数値は入れてほしいと思います。例えば、空き家の数も知りたいですし、外から人を呼んで空き家を埋められないのかなど、これからチャレンジしていかなければならないと思いますので、数値があるのであれば入れてほしいなと思いました。

会 長 ありがとうございます。大学生の統計データが出ているのは23ページですね。山形大学では大学院生を含めて増やしているとは思うのですが。

事務局 数値については改めて確認します。

会 長 この学生数には高等教育機関ではない専門学校の生徒は入ってこないのですよね。市内には看護専門学校などもありますけれども。

事務局 はい。

委 員 この計画には5年後、10年後の予測数値は入れないのですか。推移が見えてくればそれに対する計画も立てやすいのかなと思ったのですが。

事務局 大学生の数となれば、大学の意向が多分に入ってくると思われれます。また、目指す目標値を掲げておりますので予測数値との絡みが出てくると思います。

委 員 確かに絡むと思いますが、そのターゲットを明確にして手を打っていくとかなり具体的な計画になるのではないのでしょうか。

事務局 検討します。

会 長 他にございますか。

委 員 各施策の最後に市民・地域・事業者に期待する役割があるのは非常に素晴らしいことだと思います。行政としてどこまで求めるのかは表現が難しいとは思いますが、例えば15ページにある市民と地域に期待する役割に「学校と連携し、学校運営を支援しましょう。」とあります。これは昔から言われていることで、開かれた学校づくりの中で学校をサポートしてくださいということですが、施策での取り組みの中にある、「地域へ開かれたより良い学校づくりを推進し、地域と一体となった学校づくりを進めます」といった表現の中に、子どもの通学路等の安全を確保するために夕方安全パトロールを地域の方々の協力を得ながらやっていくので地域に参加してくださいという表現や、子どもの学力を向上させるために、地域の方々も放課後勉強のサポートが必要なので、学校への支援をしてほしいという施策の取り組みがあって、それに対して期待する役割があるという構成上つながるようにできればしていただきたいと思います。今は、教育を例に挙げましたが、他の施策でも同様で、例えば11ページの期待する役割で、就業者に対して、「自己の職業能力向上に努めましょう。」としているわけですが、これだけ言われても何ともしようがないので、「行政としてこういった取り組みを連携して行うので就業者はぜひ利用して自らの職業能力を高めてください。」というようなアプローチにしていきたいと思います。

会 長　　まだまだ改善の余地があるということが皆さんの御意見からも分かりました。予定の時間となりましたので、本日の審議はここで終了させていただき、この場で御発言できなかった御意見等については、先ほどの説明のとおり5月25日まで事務局にメール等にてご提出いただきますよう御協力をお願いします。それでは次に進みます。その他についてであります。委員の皆様や事務局の方から何かありますでしょうか。

事務局　　次回審議会は6月9日（火）午後1時30分から伝国の杜小会議室にて開催させていただきますのでよろしくお願いいたします。

会 長　　本日の審議はここで終了させていただきます。スムーズな議事運営に御協力いただきましてありがとうございます。

事務局　　本日はお忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございました。これをもって本日の米沢市総合計画審議会を閉会いたします。

（4）閉会

以上